



報道関係各位

令和3年3月1日(月)

【自立×挑戦】 「波力エネルギーを電気に！」 世界初の波力発電実証実験を開始

慶應〇学発ベンチャー企業として、音力、振動力、波力など新たなエネルギーを利用した発電の技術開発を手掛ける株式会社音力発電(本社:神奈川県藤沢市、代表取締役:速水浩平、URL: <https://www.soundpower.co.jp>、以下音力発電)は、自社が保有する特許技術(特許6709548)による世界初の発電方法で、波力エネルギーを電気に変える「次世代型波力発電」の実証実験を島根県の海士町で実施いたします。

次世代型波力発電とは、海面が上下する波の力を利用して、発電システムのタンク内にある水を押し上げ、上部に貯まった水が落下するエネルギーによって発電機のタービンが回り、電気が生まれる仕組みです。落下した水は再びタンク内に戻り、再度上部へ押し上げられ落下し発電する「循環型」の構造になります。

〇般的な再生可能エネルギーの年間設備利〇率(稼働率)は意外にも低く、風がないと止まってしまう風力発電は地上で20%、日照がないと発電できない太陽光に至っては10~15%と言われています。これに比べて開発中の波力発電の稼働率は、試算上90%以上と桁違いの高さを誇り、実用化されれば再生可能エネルギーを主体とするエネルギー体制への転換が大きく前進します。

■NEDO、総務省、国交省が同時採択！

この技術の実現に向け、音力発電では2019年度からNEDO事業に採択され、実機の研究開発を進めてきました。研究が進む中で、設置や運用にかかるコストや耐久性、発電効率など、従来の波力発電技術と比較して優位性があるため期待が高まり、本年度はNEDO事業のほかに、国交省、総務省の2つの事業にも同時採択され、〇体的に技術開発を推進しています。

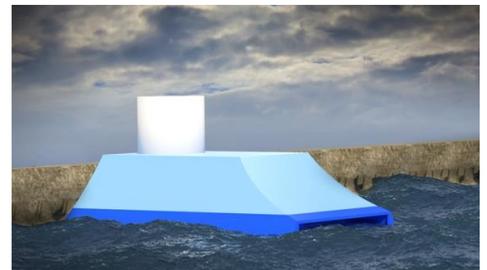
《次世代型波力発電の実証概要》

日時:2021年3月4日(木)午前9時~12時

場所:海士町崎・青谷(島根県隠岐郡海士町崎135付近)

内容:縮尺中型発電装置における導〇候補地の選定実証

※発電装置を海上に設置します。



発電機外観イメージ図

海士町政指針

自立・挑戦・交流×継承・団結

~心ひとつに！みんなでしゃべる(引っ張る)島づくり~

海士町らしい価値観

「ないものはない」(なくてもよい、大事なことはすべてここにある)



■ 詳細のお問い合わせ窓口

海士町役場環境整備課(山下)

【TEL】08514-2-1826

ご取材よろしくお願ひ申し上げます。